

# 牧羊ひろば



広島栄光教会 伝道科・子ひつじクラブ

なんとかして幾人かを救うためである。

I「リント9・22

「ネクストワン(NEXTONE)」な宣教を私たちのCS活動で最上の一回、というものがあるとすれば、それは「来週」となります。ですから、それを目指している「写真」ですべてを察して下さい。

広島栄光教会は、5、6年前からは高齢化が目立ち、青年層以下がほとんどいない状態です。CS活動を盛んに行うのは、今繋がってくれている子どもたちがこれから

「私たちの神の家族になつてくれる事」を期待してです。そのために伝

道活動とサークル活動をしているのです。

広島栄光教会は現行の「伝道科・子ひつじクラブ(木)と(日)」とい



プロマイド

う形に致しました。それは、教会すべての活動を宣教にリンクしたものとしよう、教会を通して地域の子どもたちとよき隣人どうしになろう、という方向転換をしたのです。少なくとも、広島栄光教会のあるこの地域には適した考え方だ、と思います。



こひつじクラブ(木) 下校時



日曜日は現在、全体のファミリー礼拝と分級です。主に幼少の子女育成です。彼らが「教会は楽しい」と喜んでくれる事が家族伝道の尖兵となっています。

日曜日がファミリー礼拝であり、教会堂主体であるのに対し、木曜日に「伝道科・子ひつじクラブ」を二回、通学路と会堂でCS活動を致します。

捨てられるチラシはやめて、手製のラミネート加工された

「みことばカード」を40〜90枚を全学年の希望者に配ります。毎週、変化を持たせて準備するのは大変です。みことばと教訓、メッセージを受け取ってもらえるように工夫されたものです。



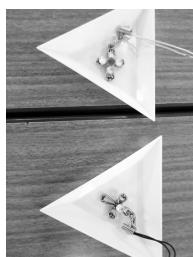
教会に来れる子どもたちには、聖書を開かせたり、



毎週、車で4、5人で行き、通学路にて車の後ろのトランクを「出店」のように工夫して何とか関心持たせて喜ばせられるように頑張っています。私たちは教会に来てくれる子どもを相手にする事よりも、出て行って出会う子どもを相手にする事を選んだのです。

あさひが丘にある一つだけの日浦小学校339人のうち、私た

ちが出会えるのはその四分の一だけです。一つだけの通学路で限られた奉仕者と役割の分担上、これ以上はできません。1人がすべての子どもの声かけ役です。カードをもらう子どもの相手に2、3人に対応し、読ませて暗唱させ、意味や解説を1分強で行い、回転率を上げます。そして、居残った子どもにご褒美などを世話するのに1人です。こういう中から、家に一度帰ってから教会に来る子どもとの関係が生まれます。



作ったり、



お交わりしたり、

路上が「伝道、関係づくり」なら、教会では「決心、信仰育成」の場として子どもにイエス・キリストと福音、またネットとかで実物とか外の世界を具体的に提示します。それと、来た子どもはプロマイド撮影をして、写真と名前を会堂に掲示

し、祈祷会でみんなに祈っていただきます。

この町の子どもたちは活字よりビジュアルで見える方がよく入りますし、十字架のペンダントとか簡単なグッズづくりになら来る子が結構います。今年は「ホールディング・クロス」を大人と子どもで作ろうか、と検討中です。



遊んだり、



寝たり、

一人でも多く、子どもの名前と顔に繋がる事を追い求めます。入れ替わり立ち替わりに来る子どもたちで受け入れなくてはいけないのは、彼らも児童館を含め塾とかお稽古事で結構忙しいのと「木曜日」というのがまとまって遊べる貴重な曜日だということです。ですから、彼らのライフ・スタイルを尊重して「受け皿」に徹しています。また、40年もこの町に存在しているのに認知されていない現実や新興宗教や児童館

などから子どもが受ける嫌がらせにも立ち向かわねばなりませんでした。しかし、そういう中で、聞く耳を持つてくれてイエス・キリストの必要を理解し、「私はイエス・キリストを主と信じます」という信仰の告白をした子どもが、この活動に変えてからの累計で30〜40人ぐらいいますし、彼らは毎週ではないにせよ、クリスマスやイースター、ペンテコステには教会に自分たちで誘い合って来てくれています。



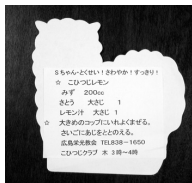
自由にして、



信じる子たちも、

そして、教会には彼らの「マイ新約聖書」があります。篤志家によって捧げられたものに記名してキープさせ、目次から自分で聞くトレーニングをしています。こうやって、やがての日に私たちの神の家族になってくれる時に備えているのです。

いつも、地域から来てくれている子どもの中の一人が、スタッフに自分から「クラスでいじめられている」事を相談してくれた事は、この時代には大きな成果です。事前にPTAの役員として「広島市のいじめの実態と対応」などの教育委員会でのクロージズな講演会への参加が許された者がおり、対応の現状を伺ったりして、「地域信用」を得る事を大事に考えています。必要があれば親たちの求めに応じて、こういう具体的な情報開示が出来る事も教会に求められている時代なのかと思います。教会が地域の中で求められる受け止められ方をするためには、エホバの証人と混同される方法、いちいち説明がいる類似行為とまったく違う別物へとこちらが方向転換する事で、「教会こそが強く明るい人格形成の主体の場」である事を示す必要があると思っています。



子ひつじクラブ（日）ファミリー礼拝

礼拝後には、



こんな楽しい教会、どこにもない。

ここ4、5年の間こうやって、地域の子どものカラーをもらう、奪うというものから、教会と共に「与える」側の子どもたちに変えてきました。

今の6年生の女子が自分の考案したレモネードをみんなに作って飲ませたい、と振舞ってくれたり、フェンスにある黒板に好きなように書かせたら、「イエスさま、ありがとう」「きょうかいのはたのしいよ」と聞いたこと、理解した事を可愛く自由に描いてくれています。

「ネクストワン (NEXT ONE)」。私たちは未来の広島栄光教会を追い求めています。

(梅原 基)